

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201575		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイ上足洗(1階ユニット)		
所在地	静岡市葵区上足洗2-11-2		
自己評価作成日	令和5年6月30日	評価結果市町村受理日	令和5年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanistrue&UjrvosyoCd=2294201575-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年7月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の間、施設で利用者様が喜んで頂けるように工夫をしてきました。ご家族様にもDVDを送らせていただく事は継続してきました。コロナ禍も少しずつ落ち着きドライブ・散歩も行うようになり、面会等も始まりました。植木・畑の収穫には力をいれ継続を行っています。今後は地域との交流、個別のケアにも力をいれ利用者様1人1人が笑顔になり安心できるよう行ってきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

アセスメント表に集約された現状と問題点、課題をもとに介護支援専門員主導で各階主任とのカンファレンスをもって介護計画を作成し、要因と問題の分析・背景・見通しを明らかにした根拠あるケアが展開されています。職員個人の経験値で判断せず、一人ひとり異なる認知症の症状に対して真摯に向き合って課題を毎月の職員会議に諮り、勉強会につなげ、共通認識をもってケアに活かしている点も秀逸です。一年分の写真をまとめて家族へ贈るDVDは、役割をこなす姿や脳トレ、レク、季節の外出など、脈々と紡がれる事業所での暮らしが穏やかに綴られ、その表情を引き出す職員の努力の賜物でもあります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍にて出来ていなかった部分もあったが、少しずつ共有し実践できるように働きかけている。	介護理念を玄関に掲示し、職員はフロア目標～個人目標に落とし込んで実践につなげる意識をもっています。3ヶ月ごとに職員会議で振り返り、未達成となった部分は次回に盛り込むなど、主任が中心となってフロアごとにPDCAサイクルを活用した取り組みがおこなわれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて、安全を優先し交流が出来ていなかったが、今年からは地域のドブ掃除なども参加し、防災訓練にも参加予定。交流を深めていきたいと思う。	地域防災訓練や側溝掃除には担当職員が参加し、地域の一員としての任務を果たしています。事業所玄関先の車寄せスペースに設置された幾つものベンチは、散歩する地域住民の憩いの場ともなっており、一見して開かれた事業所であることがうかがえます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ていなかった部分もあるが、運営推進会議などで、勉強会などの報告なども行い活かしている。 管理者の方が認知症サポーター養成講座にも参加する。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて書面での対応を行ってきたが、今年からは開催を行う。サービスを向上できるよう取り組んでいく。	書面で代替されていた運営推進会議も6月よりメンバーが顔を合わせた開催となっています。地域包括支援センター職員、近隣住民、家族2名が参加し、事業所の状況報告、ヒヤリハット、事故報告、研修や活動報告に加え、多彩な意見交換がおこなわれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者・ケアマネの方が市町村と連絡を密に取り、分からない事、対応・相談なども行いサービスの向上に取り組んでいる。	昨年度の指定更新をはじめ、些細な疑問点にも都度書面持参で市介護保険課窓口へ出向いて確認を取り、事業所運営の透明性を重視しています。また、各事業所の課題を持ち寄って相談できる伝馬町横内包括グループホームネットワーク会議も心強い存在となっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会なども行い身体拘束をしないように取り組んでいる。夜間は防犯の為施錠はしっかり行っている。一番は言葉の身体拘束については、今後の課題でもある。	各事業所管理者が集まり法人全体で開会していた委員会ですが、指針との整合性を検証しつつ、今年度より事業所独自でおこなっています。「安全を守る施錠と拘束になる施錠」「個別事例検討」等、具体性を増した協議で、現場目線の課題解決と意識統一に向けて邁進しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が厳しく伝えている。ケア・対応についても意識をもち対応をしている。管理者はその都度説明・注意を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・ケアマネの方で個々の必要性に合わせて話し合い、対応を行っているが、職員まで共有ができていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者の方で、面談・契約の時に説明を行い、対応を行っている。今回の運営推進会議では、マイナカードについての説明等も行う予定。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今までは、書面での対応だったあ、意見・要望等があった場合は、少しずつ反映できるように取り組んでいる。	当日出席できる人数に限りはあるものの、運営推進会議開催をすべての家族に呼びかけており、議事録も開示しています。事業所の運営を入居当初から見守ってきた家族からは忌憚ない意見が寄せられ、事業所からも誠実な対応が為されていることが議事録から読み取れます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などで必ず意見・提案をきき、できるところから反映に繋げている。	環境整備や備蓄、消耗品等、各自が係を受け持ち、目標設定をおこなうことで責任感や向上心をもった姿勢が顕著になり、会議における発言も活発です。ベンチ老朽化による買い替えや自転車置き場の照明見直し、倉庫の浸水被害予測など多方面からの気づきが入り入れられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	係などを決め、やりがい・責任・向上心を持って働けるように整備している。個々の目標も聞き振り返りを行っている。努力が必要に思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内の研修などは行っているが、外部の研修に参加ができていない。今年から、防災訓練シュミュレーション訓練・感染シュミュレーション訓練など行うようにしている。個々の力量や把握・対応は行えていない部分も現状見られる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大勢での交流は出来ていないが、管理者・ケアマネの方で、グループネットワーク会議など参加を行い取り組むようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個別ケアを行い、利用者様が安心を確保できるよう取り組み職員間で共有できるようにしている。 個々の力量がある為、その都度の対応・検討もしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時・規約後も今、何が不安・心配なのか、希望がある確認を行い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何を求めているのか、観察・共有を行い、管理者・ケアマネの方にも報告・相談を行い他のサービス利用も含め対応を行っている。 必ずご家族様に相談し了承頂く。マッサージ・歯科往診など		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設にて、安心感を持ってもらうにはどうしたらいいか、考えながら取り組んでいる。場合によっては、個別ケアを行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等も始まり、御家族様の意向や、利用者様の思いも考え、話し合いながら関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで行なってきた事も情報で頂き、施設でもできるように支援を行なっている。	5類感染症へ移行後も感染拡大のリスクは変わらないため面会は事前予約とし、1階地域交流室やテラス等で飲食を控え15～30分としています。お化粧やパック、髪染めやパーマを継続したり、勤務していた会社のバーベキューに仲間入りしたりと在宅の頃と変わらない支援があります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様子をみながらトラブルにならないよう、関わりがもてるよう工夫を行なっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時などもご家族様の意向にそえるようにしたり、他の施設にいかれ心配事がある場合は、フォローができるよう対応を施設長が行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意見・意向を尊重し対応できるように努めている。できない所はさりげなく行なうようにしている。	一人ひとり異なる認知症の症状に対して真摯に向き合い、職員個人の経験値で判断せず、接遇や身体拘束適正化に係る取組、委員会等で挙げた課題については毎月の職員会議に諮り、職員個々の意見を取り入れながら勉強会につなげ、共通認識をもってケアに活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前契約時、契約後も把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のADLも把握しながら、職員会議にて共有し対応に努めている。一日座っている事がないように体操・レク・散歩などもとりいれるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行ない、ケアマネが介護計画を作成している。	アセスメント表に集約された現状と問題点、課題をもとに介護支援専門員主導で各階主任とのカンファレンスの時間をもち、介護計画を作成しています。要因と問題の分析・背景・見通しを明らかにすることで、根拠あるケアが展開されていることが明白です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かく記録に残し、職員回会議で今必要な課題をあげ話し合いを行ない共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれたニーズに対し、話し合いをし柔軟に支援ができるよう取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて出来ていなかった部分もあったが、出来る限り楽しむ事ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診対応を行なっているが、必要な受診については、御家族様に説明を行ない受診するように支援している。	月2回訪問診療をおこなう協力医に全員が変更し、皮膚科や歯科等専門医は家族が受診支援しています。診療当日は体調変化と質問事項をまとめて主任が立合い、医師の指示は往診記録に記載しています。診療内容で急務や内服薬の変更があれば即日家族に連絡しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の方には、必ず往診報告なども行ないながら、施設での様子・相談を行ない支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者・ケアマネが対応を行なってる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取りを行っていないが、御家族様、利用者様の意向も聞きながら往診・訪問看護のども協力して頂き出来る限りよう支援している。	重度化した場合については契約時に説明し、了解を得ています。食欲低下が顕著になり、重度化が予想される場合は、医師の診断をもとに家族と事業所とで話し合いを重ね、本人と家族にとってよりよい選択ができるようにしています。転居に関しても責任をもって情報提供しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍にて応急手当の訓練は消防より受ける事が出来ていなかったが、研修で対応を行なっている。今後は定期的に行なうように対応をしていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を行っている。今年からシミュレーション訓練も取り入れている。 コロナ禍にて地域の訓練に参加ができていなかったが今年からは訓練に参加予定。	水害や停電時のシミュレーションをもとに避難場所への移動の可否、安否確認の方法、蓄電池耐久時間、備蓄の適切な運用など立地条件から災害の影響を把握し、グループホームネットワーク会議での情報も活かしながら、サービスを継続するために必要な対策を検討しています。	シミュレーション訓練を重ねつつ、訓練メニューを再検討してチェック表に落とし込む等、全職員が身につけられることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合わせた声かけ・工夫を行なっている。	介護現場における円滑な人間関係として、「相手の心に届く言葉遣い」を研修に取り入れて学んでいます。利用者の人格や尊厳を否定するような言葉を避け、クッション言葉を適切に使う、など自尊心を傷つけず羞恥心に配慮した場面ごとの声かけを共有しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の中で、自己決定ができる部分と、してあげられない所も現状あったと思われる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースを大切に対応ができるよう、出来ていない時は、職員間で声かけを行いながら支援できるよう努めている。現状現場で出来ていなかった場合は、助言・アドバイスなども行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御家族様の意向、おしゃれが好きな方などは、意向に添えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる事が好きな利用者様多いので、目で楽しめるよう工夫を行なっている。一緒に行なえる利用者様は一緒に行なうように対応をしている。	朝・昼に比ベタ食にかける手間暇は改善の余地がありますが、職員が3日に一度買い物に出かけ、旬の野菜を彩りよく取り入れる献立を買いしています。シーズンにはシラス買い出しや魚屋の船盛、誕生日の手作りケーキなど好きな物、食べたいものを叶える機会を毎月もっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の食事量なども把握しながら、工夫など行なっている。栄養状態が心配な時は、往診などにも相談を行なうよう対応を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。歯科往診・受診などからの指導も取り入れながら、対応をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンは把握し、段階をおいながら利用者様にあうよう支援を行なっている。	チェック表をつけることで一人ひとりの排泄パターンを把握し、「キョロキョロして眉間にしわを寄せる」「お腹を擦る」など利用者独自の排泄のサインを掴み、職員間で情報共有して誘導していることがアセスメントシートに裏付けられ、失敗のない排泄が援助されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	往診でも相談を行なっているが、飲み物、食物繊維なども取り入れ対応を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤なども使い、色や臭いなのでも楽しめるようにしている。現状曜日の設定はしているが、利用者様の希望にて入浴もできるように対応を行なっている。	本人が入りたいという時を優先して週2回を目安とし、湯は一人ひとり入れ替え、複数準備されている入浴剤から好みの物を選んでもらって入浴しています。異性による介助が気になる場合は同性介助で対応し、拒否がある人は無理強いせず、安心して入れるよう環境を整えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況により、ドクターに相談をすることもあるが、入眠時間の見直し、利用者様の習慣も取り入れながら対応も行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より、用紙でも頂いているが、指導も受け職員間で共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換などの支援は行なうように努めているが、個々の支援までは現状できていない部分もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設では外気浴・散歩・ドライブなど検討しながら支援している。面会・外出・外泊なども今年より再開している。2ユニットの為、偶数・奇数づきに分けさせて頂き協力をえながら行なっている。	落ち着かない人や壮健な利用者の外出意欲に添うため、職員間の連携をもってタイムリーに応える形で散歩やドライブを実行し、気分転換に功を奏しています。家族と外出する際は混雑する場所を控えていただくよう協力を仰ぎ、自宅でゆっくり過ごすなど理解を得られています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、契約時に説明をさせて頂き施設での管理をさせて頂いている。ご本人様の意向などあった時は対応できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙・お電話などはやり取りができるように支援を行なっている。お手紙などは、お部屋に飾り見れるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感をかんじれるように飾りなど工夫を行なっている。不快感を感じないよう綺麗になる様に心がけている。	静かな住宅街に構える事業所の庭には毎年実をつけるリンゴや桃、キンカン、柿の木が植えられ、リビングの制作品とともに四季の訪れを知らせています。感染予防には「こまめな換気と念入りな洗面台清掃」との医師からの助言を取り入れ、日頃の清掃に加えて徹底しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中々、認知症や、ADLの事も考えながら利用者様同士で話せるよう工夫している。職員も入り対応を行なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族様の意向も聞きながら、安心して頂けるよう対応を行なっている。	絨毯とソファ、テレビの前にセットされた愛着ある椅子が持ち込まれ、孫との写真や贈り物のブリザーブドフラワー、ぬいぐるみや孫の手、好きな色に揃えられた小物など、本人と家族が相談しながら設えた居室空間には、離れて暮らしても寂しくないように込められた思いが詰まっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	把握を行い、できなくなることが不安にならないよう工夫を行い、一人一人にあった対応を行なっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201575		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイ上足洗(2階ユニット)		
所在地	静岡市葵区上足洗2-11-2		
自己評価作成日	令和5年6月30日	評価結果市町村受理日	令和5年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_022_kanistrue&UjrvosyoCd=2294201575-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和5年7月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の間、施設で利用者が喜んで頂けるように工夫をしてきました。ご家族様にもDVDを送らせていただく事は継続してきました。コロナ禍も少しずつ落ち着きドライブ・散歩も行うようになり、面会等も始まりました。植木・畑の収穫には力をいれ継続を行っています。今後は地域との交流、個別のケアにも力をいれ利用者様1人1人が笑顔になり安心できるよう行ってきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

アセスメント表に集約された現状と問題点、課題をもとに介護支援専門員主導で各階主任とのカンファレンスをもって介護計画を作成し、要因と問題の分析・背景・見通しを明らかにした根拠あるケアが展開されています。職員個人の経験値で判断せず、一人ひとり異なる認知症の症状に対して真摯に向き合って課題を毎月の職員会議に諮り、勉強会につなげ、共通認識をもってケアに活かしている点も秀逸です。一年分の写真をまとめて家族へ贈るDVDは、役割をこなす姿や脳トレ、レク、季節の外出など、脈々と紡がれる事業所での暮らしが穏やかに綴られ、その表情を引き出す職員の努力の賜物でもあります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍にて実践につながる事が困難であったが、今年から少しずつ繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	去年の台風などは相談しながら交流できたが、コロナ禍は現状難しかった。今後地域の参加なども行い、交流していく		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度6月より、運営推進会議の再開も始まる為、再び理解をしていただくよう、活かしていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面にてと意見交換対応を行っていたが、6月より開催予定		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者が、書面にて変わらぬ協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常日頃から話し合いをし、取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月研修資料などを作成し学ぶ機会をもったり、会議の議題にあげ防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は現状出来ていないが、支援できるように対応をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者が常に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	代表者が書面にて家族からの要望など説明を受けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に機会を設け意見交換をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	問題に対して面談を行い把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修など行い進めている。資格の部分についても進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大勢での交流は出来ていないが、管理者・ケアマネの方で、グループネットワーク会議など参加を行い取り組むようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴する事を心がげ各職員にも理解される様、声かけを行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的にお電話、メールにて連絡を取り関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	代表者と管理者職員で話し合い必要なサービスの指示を受けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何年もかけ段々と関係を築きつつある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	絆が切れない様大切に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて一旦その場との関係を築くのは大変であったが人との関係は途切れていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ADL差がある為絶対ではないが孤独する事のない様努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	代表者へ退所された御家族様より連絡が入り内容の報告、伝達を受けている。良好な関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネと定期的に話し合いを行なっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	経過等の把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員からの申し送りにて把握し業務にて現状の確認をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネと共に話し合いの場を設け作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	代表者に相談し日々取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内にて理美容・歯科往診・マッサージなどは活用してきたが、今後外出にて支援していこうと思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員とも相談し、早急に受診をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週・毎月きちんと支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	代表者がすぐに対応をし関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	支援に取り組む機会が年々増えており常に大きな課題として取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が身につけていない現状がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会議でも話し合い、全職員が身につける様努める。 近年はととも力を入れている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がきつい職員の場合はすぐにその場で注意し声かけの指導などを必ず行なうようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員から利用者様に確認をしやりたい事を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のこだわりを尊重し自由におしゃれをされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADLに合わせて利用者様にはできる限り作業をして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアスケジュール表を記入・チェックしながら確保できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず行なっている。必要ならア日か往診も受けて対応をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	特に力を入れ支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否のあった場合、曜日などを変え対応をしているが個々の利用者様に合わせる事が現状難しい。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間皆様でくつろぐ時間をもうけ対応を行っているが、その日その日にて、気圧の関係等・色々な状況でしっかり入眠されていない事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診対応時に必ず、医師・薬剤師に指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	努力はしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍中は無理であったが、最近のご家族様との外出もされる様になってきている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では、トラブルになる為、お金は所持していないが、希望などがあれば、購入などで対応を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方は、やり取りをされている。現状携帯を持たれている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備はきちんと行なっている。 季節感などは、料理などで工夫・行事は飾りにて工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が自立の場合は、自由にされている。 利用者様同士は、皆さん仲がよい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	元々ご自宅にあった家具などを使用されている方が多い。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が通る所など、足元に物を置かない様に指導をしている。		